

川口市立医療センター 2027年度研修医募集

当センターでは、30の診療科をはじめ、救命救急センター・周産期センター（NICU）・画像診断センター・総合健診センターを設置し、プライマリ・ケアから高度専門医療まで広範囲な医療を展開いたしております。特に救命救急はその設備と活動が評価され基幹災害医療センターに指定されております。

- 応募資格：1または2の要件を満たし、マッチングシステムに参加登録する者
1. 2027年に医師免許取得見込の者（第121回医師国家試験受験者）
 2. 既に医師免許を取得しており、臨床研修を開始していない者

□研修期間：2027年4月1日から2年間

□募集コース及び募集人員 総合コース：12名

□処遇（2026年4月現在）

身分：会計年度任用職員

給与：1年次 月額 437,088円 2年次 月額 450,660円

手当：時間外勤務手当、期末・勤勉手当

その他：宿舍あり（一部負担有・原則入居必須）・社会保険加入・雇用保険加入

- 提出書類：①採用試験申込書（指定様式）
②川口市職員採用試験受験票（85円切手を貼付）
③**GPAが記載された**成績証明書、卒業見込証明書又は卒業証明書
（医師免許取得済みの場合はGPAが記載された成績証明書、医師免許証の写し）
④CBT個人成績表の写し（再試験者は本試・再試とも提出）

□試験日

- ◇第1回 2026年8月17日（月） 各集合時間：13時30分～（予定）
◇第2回 2026年8月20日（木） （集合時間については送付する）
◇第3回 2026年8月25日（火） 受験票をご確認ください

受付期間 2026年6月22日（月）～7月15日（水）

※郵送（簡易書留・レターパック等の郵便記録が追跡できる方法）のみ、当日消印有効。
募集締切後、受験票を送付いたします。8月10日（月）までに届かないときは
病院総務課職員係までご連絡ください。

□試験会場：川口市立医療センター2階 第2会議室 他（持ち物：受験票）

□試験内容：個人面接・書類審査

※応募者多数の際は、面接試験の前に書類選考を行う場合があります。

□採用手続：合格発表後、健康診断書（検査項目は後日指定）を提出していただきます。

次の事項に該当する場合は、採用が取り消されます。

- ア 提出した書類に虚偽があった場合
- イ 医師免許国家試験に合格しなかった場合
- ウ 健康診断の結果、就労可能の判定が得られなかった場合
- エ 申請の遅延等の事情により医籍登録が相当の期間遅れた場合
- オ その他任命権者が不相当と認めた場合

□問い合わせ 川口市立医療センター病院総務課職員係
〒333-0833 埼玉県川口市西新宿180番地
TEL 048-287-2525 内線 2215
E-mail 170.01005@city.kawaguchi.saitama.jp

川口市立医療センター卒後臨床研修プログラム

プログラムの目的と特徴

《目的》

第一線の臨床医、あるいは高度の専門医のいずれを目指す場合にも必要な基本的知識・技能を習得するとともに、臨床医としてあるべき態度を身につけることを目的とする。

《特徴》

基礎研修科目を必修科目とするほか、選択期間を設けることにより、研修の幅を広く提供していくものとする。

内 科 消 化 器 内 科 血 液 内 科 脳 神 経 内 科 呼 吸 器 内 科 腎 臓 内 科 糖尿病内分泌内科	指導医のもとで、各分野の入院患者を受け持ち、病歴現症のとり方、検査法の選択から診断、診療への過程を学ぶ。この間に基本的検査法、基本的治療法の手技を実地研修するとともに、各種カンファレンスや読影会にも出席し、内容の主要疾患に関する診療技術と知識を習得する。
循 環 器 科	主要な循環器疾患（高血圧を含む）に関する基本的な知識、技能を習得するために、指導医のもとに入院患者を受け持ち、病歴、現症の取り方、検査法の選択から診断、治療への過程を学ぶ。この間に基本的検査法、基本的治療法の手技を実地研修するとともに、各種カンファレンスや抄読会にも出席する。
小 児 科	外来は一般外来・午後の特設外来（てんかん・アレルギー・心臓外来・腎外来・予防接種・乳児健康診断・発達外来など）、中核病院として近隣の病院、診療所からの紹介も多い。対象疾患は多彩で短期間に多くの症例を体験できる。
外 科 消 化 器 外 科 乳 腺 外 科 呼 吸 器 外 科 小 児 外 科 心 臓 血 管 外 科	上級医の指導のもとで担当医として入院患者を受け持ち、検査、診療にあたる。一般腹部外科、呼吸器外科、血管外科、形成外科、小児外科、乳房外科、心臓外科などの手術に術者、助手として参加し、術前術後管理を担当する。 年間入院手術件数は、約 1,000 例である。

形 成 外 科	<p>上級指導医のもとで形成外科的疾患の検査、診断、治療方法について学ぶ。</p> <p>特にマイクロサージャリーによる再建外科（切断肢指再接着術、乳房再建術、悪性腫瘍切除後の再建術、四肢の形成術）に力を入れている。顔面外傷、先天奇形（口唇口蓋裂、小耳症、多指症）、熱傷（全身管理含む）、軟部腫瘍の年間手術症例も数多く、形成外科を多岐にわたって学ぶことができる。</p>
整 形 外 科	<p>整形外科医師チームの一員として病室、ならびに外来の診療、検査、治療に参加して、そのなかで直接指導を受ける。また、研修医のためのプログラムに則り整形外科の基本についての教育を受ける。さらに、症例検討会、リハビリカンファレンス、院外の関連病院勉強会にも参加して勉強する。</p>
脳 神 経 外 科	<p>脳神経外科疾患の診断および治療に必要な知識、技術を習得する。また、頭部外傷、脳血管障害などの救急患者のプライマリ・ケアが迅速かつ十分に行い得るようにする。さらに、学会発表、論文作成など適切な報告をする能力を身につけるようにする。当科での研修は、日本脳神経外科学会専門医訓練年限に加算される。</p>
皮 膚 科	<p>主として外来において、専門医と共に診断・治療について習得する。臨床スライド、病理組織、症例検討などにより皮膚疾患の基礎的訓練を行い、この間皮膚生検、冷凍術、パッチテスト、小手術などの実際的処置を行い、必要な知識と技能を習得する。皮膚科関連学会に出席し、研究発表を行う。</p>
泌 尿 器 科	<p>泌尿器の基礎的知識、基本的診察法（検尿、触診）を習得し、救急時のカテーテル導尿法、留置法等を実施。手術、特殊検査（膀胱鏡、尿管カテーテル法、超音波等）の際は助手となり泌尿器科的検査の特殊性と意義と読影術を学ぶ。病理検討会、症例検討会にも参加する。</p>
産 婦 人 科	<p>産婦人科病棟において上級医のもとで研修する。産科病棟においては分娩管理に重点を置き、周産期センターの特徴を生かしてハイリスク妊娠の妊婦管理や分娩方法を研修する。婦人科病棟においては婦人科疾患に対する知識を習得するよう指導する。手術に対しては助手または術者として、当直制に対して副当直として参加してもらう。</p>

眼 科	<p>一般的基礎知識と基本的な臨床検査法（視力、屈折、視野、眼圧、細隙燈顕微鏡、眼底検査、眼底写真、蛍光眼底造影、電気生理検査など）を習得する。最初は簡単な外眼部手術を行う。白内障を中心とした内眼部手術は、入院患者を受け持ち、手術手技および術前後の管理を学んだ後に行う。光凝固の適応基準と実施手技を行う。</p>
耳 鼻 咽 喉 科	<p>耳鼻咽喉科診療における基本的な知識と技術を学習し、耳鼻咽喉科疾患の診断、検査、治療を習得する。さらに耳鼻咽喉科的救急患者の診断、治療（処置も含めて）を学ぶ。入院患者については、主治医と共に診察、治療にあたる。</p>
放 射 線 科	<p>主要な画像診断装置としてCT、MRI、ガンマカメラ（SPECT）等充実。放射線治療装置としてマイクロトロン、マイクロセロクトロンHDR、温熱治療装置と充実した装置と、豊富な症例があり、専門医の指導のもとで、画像診断、放射線治療の専門的知識、技能を習得する。</p>
麻 酔 科	<p>無菌室を含む8つの手術室で年間約3,400件の手術麻酔業務を行う。ペインクリニック外来では難治性の頑固な痛みにも効果を上げ、帯状疱疹後神経痛、椎間板ヘルニアなどの腰下肢痛、三叉神経痛、顔面神経麻痺、肩関節周囲炎などが多く、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、三叉神経ブロックを行うことが多い。</p>
精 神 科	<p>指導医のもとで、精神科外来診療において求められる基本的知識・技能・態度を習得する。患者に対する面接（接し方、病歴聴取、症状の把握の仕方）、心理学的・身体的検査、診断、治療の技能を学習する。また他科入院患者を対象にリエゾン精神医学を実習する。</p>
新生児集中治療科 （NICU）	<p>ハイリスク児の年間入院患者約240名。うち超低出生体重児は約10名。常時8～9台の人工呼吸器が稼働。気管内挿管はじめ呼吸循環管理を中心に技術を研修する。さらに、退院したハイリスク児につき発達発育健診を行う。産科における年間500名の正常新生児についても、診察の仕方を習得。</p>
救 命 救 急	<p>院内の救命救急センター（日本救急医学会専門医指定施設）において、主として重傷救急患者の診察にあたる。多発外傷・脳血管障害・急性薬物中毒・熱傷などの初期治療のほか、頭部・胸部・腹部外傷を中心とした緊急手術および重傷疾患に対する呼吸循環管理や血液浄化法などによる集中治療を行う。</p>

病 理 診 断 科	組織標本・細胞標本作成を経験し、病理検査の基本を理解する。指導医と共に組織・細胞診断業務に携わり、外科病理の知識・各疾患の知識を深める。剖検ならびに診断を行うことで解剖・病態生理を理解し、系統的診断能力を養う。ケースカンファレンス・CPCに参加することで、病理の役割とチーム医療の重要性を理解する。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

《研修の期間割》

【 総合コース 】

内科 3 2 週・救急部門 1 2 週・地域医療 4 週・外科 8 週・産婦人科 4 週

小児科 4 週・精神科 4 週・選択科目 3 6 週

(一般外来は内科 3 2 週のうち 4 週を総合内科として研修)

1 年目

1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24	25~28	29~32	33~36	37~40	41~44	45~48	49~52
内科							救急	外科	産婦人科	小児科		

2 年目

1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24	25~28	29~32	33~36	37~40	41~44	45~48	49~52
救急	精神科	地域医療	内科 (外来)	選択								

- (注1) 研修 1 年目救急部門 8 週、2 年目に救急部門 4 週、地域医療 4 週、精神科 4 週、一般外来 4 週の研修を行います。
- (注2) 研修医によってローテーションの順番は異なります。
- (注3) 臨床研修を円滑、効果的に進めるために、採用後 1 週間程度オリエンテーション（臨床研修入門コース）を実施します。

《協力型臨床研修病院》

〔精神科部門〕

・医療法人秀峰会北辰病院
埼玉県越谷市七左町 4 - 3 5 8

・医療法人高仁会戸田病院
埼玉県戸田市新曽南 3 - 4 - 2 5

《研修協力施設》

〔地域医療部門〕

- ・ 医療法人刀水会 齋藤記念病院
埼玉県川口市並木4-6-6
- ・ 医療法人時任会 ときとうクリニック
埼玉県さいたま市緑区大門1941-1
- ・ 国保町立小鹿野中央病院
埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300番地
- ・ 安行診療所
埼玉県川口市安行原191-1

◇研修医の出身校

旭川医科大学・関西医科大学・杏林大学・群馬大学・国際医療福祉大学・順天堂大学・昭和大学・千葉大学・東京慈恵会医科大学・東京女子医科大学・東北大学・鳥取大学・長崎大学・新潟大学・日本医科大学・日本大学・福島県立医科大学・山形大学 他

◇卒業後の進路

日本大学医学部附属板橋病院、東京慈恵会医科大学附属病院、日本医科大学附属病院 他

川口市立医療センター

◇病院事業管理者： 國 本 聡

◇院 長： 立 花 栄 三

◇所 在 地： 〒333-0833 埼玉県川口市西新井宿 1 8 0 番地 TEL 048 (287) 2525

◇ホームページアドレス： <http://kawaguchi-mmc.org/>



◇最 寄 駅： 埼玉高速鉄道 新井宿駅 徒歩 10 分

国際興業バス JR川口駅東口・西川口駅東口・蕨駅東口より

『新井宿駅』行き乗車『川口市立医療センター』下車

JR赤羽駅東口より

『川口市立医療センター』行き乗車 終点下車

◇病院の概要：

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

診療科名	内	循	外	小	産	眼	耳	皮	泌	放	整	脳	精	麻	リハ	形	病	救	計
医師数	20	8	13	14	5	2	2	1	4	3	6	4	1	7	0	2	1	4	97
指導医 (講習会受講済)数	10	6	8	9	2	1	1	1	2	3	5	3	1	3	0	1	1	4	61
1日平均入院患者数	380.8 (令和7年度)																		
1日平均外来患者数	814.3 (令和7年度)																		
平均在院日数	10.0 (令和7年度)																		

※指導医数には臨床経験7年以上の常勤医師で、厚生労働省の開催指針に則った指導医講習会修了者を計上

◇病院の沿革・特徴：

当センターは昭和22年に開設され、平成6年5月にJR京浜東北線川口駅前から現在の場所に移転し、その名称も川口市市民病院から川口市立医療センターに変更した。一次から三次医療までを包括しつつも、病診連携を推進することにより、より高度な医療を目指し、地域完結型の病院となるよう努力している。なかでも救命救急センター(ECCM)・集中治療科(ICU/CCU)・新生児集中治療科(NICU)といった救急部門は、市内のみならず県南部全域をカバーするまでに充実している。また、画像診断センター及び放射線科治療においても、近隣に誇るべき設備を有している。

平成9年度には全国に先駆けて財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価」を受審し認定証が交付された。

またNPO法人卒後臨床研修評価機構による第三者評価を受審し、令和5年2月1日付けで4年間の認定更新となった。

平成30年4月から地域医療支援病院に移行し、地域の医療機関との連携をより強化するとともに、「市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します」という基本理念の実現に努めている。